



2020年5月22日

新潟大学

「ただしイケメンに限る」は本当か？

— 女性の顔魅力は服の評価を変えるが男性の顔はそうでもない —

新潟大学人文学部の新美亮輔准教授（認知心理学）と同学部心理・人間学主専攻プログラム卒の山田真也氏は、服の魅力の評価するときに服を着ている人の顔の魅力が影響してしまい、しかもその影響は服を着ている人が男性のときに比べ女性のときに大きいことを発見しました。この結果は、評価する人が男性でも女性でも同じでした。この研究は、山田真也氏の卒業研究として行われたものです。

【本研究成果のポイント】

- 魅力的な顔の人が着ている服は、同じ服でもより魅力的に評価されてしまった。
- このような顔魅力の影響は、男性の顔ではわずかだったのに対し、女性の顔でははっきりと現れた。評価する人の性別は関係なかった。
- 外見的魅力が人の判断に影響する魅力ステレオタイプは服にまで及ぶことがわかった。

I. 研究の背景

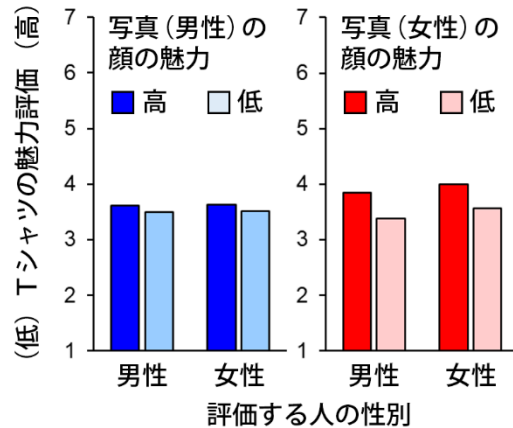
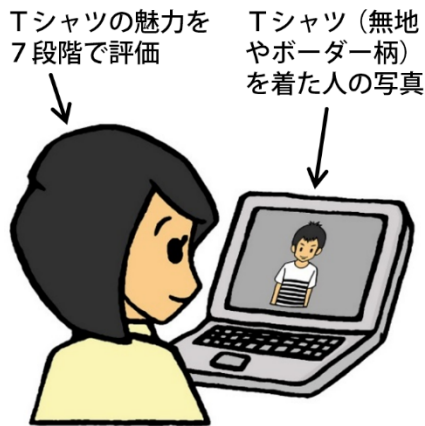
人の印象は、行動だけでなく、顔や服装などの視覚的情報にも影響されてしまいます。特に顔の魅力の対人知覚への影響については、多くの心理学的研究があります。しかし近年、認知心理学において、対人知覚における顔以外の情報の重要性が注目されており、顔の知覚とそれ以外の身体部位の知覚がどのような関係にあるのかが問題になっています。

服装が着用者の印象に影響を与えることは知られています。しかし、着用者の顔の印象が服の印象に影響を与えるかはよくわかっていません。魅力的な顔の人が着ていると同じ服でも魅力的に思えるのか、実証的には確かめられていませんでした。魅力ステレオタイプという心理学的現象があり、魅力的な顔の人物は能力やパーソナリティまで良いと評価されてしまいやすいことがわかっています。このような現象が服にまで波及する可能性が考えられました。

また、服の印象についての心理学的研究は、女性の服を検討したものがほとんどで、男性の服の印象については研究が少ないのが現状です。しかし、顔の魅力の心理学的研究では、顔の性別とそれを見る人の性別の組み合わせによって顔の魅力の影響が異なることがあるとわかっています。そこで、仮に顔の魅力が服の魅力評価に影響するならば、その影響の出方は顔の性別と評価する人の性別によって変わるのかを検証しました。

II. 研究の概要

まず事前調査によって、大学生の顔写真（男女）の中から高魅力顔と低魅力顔の写真を複数



選出しました。これらの顔写真を、さまざまな色・柄のTシャツ（無地，太いボーダー柄，または細いボーダー柄）の画像に合成し，人物がTシャツを着ている画像を作成しました。

次に，顔とTシャツの合成画像を大学生（男性30名・女性30名）に1枚ずつ見せて，顔ではなく服の魅力を1から7の7段階で評価してもらいました（数値が大きいほど魅力が高い）。各評価者は，男性顔が合成された画像36枚と，女性顔が合成された画像36枚の，両方を評価しました。直感的な第一印象を答えてもらうため，写真は1秒間だけ表示しました。

Ⅲ. 研究の成果

グラフのとおり，高魅力顔の写真に対するTシャツの魅力評価の平均値は，低魅力顔の写真に対する平均値よりも高くなっていました。つまり，Tシャツ自体は同じでも，高魅力顔が合成されていると，低魅力顔が合成されているときよりも，Tシャツがより魅力的に評価されたこととなります。ただし，高魅力顔と低魅力顔の差は，顔が男性のときには（統計的にはゼロではないと言えるものの）とても小さな差でした。これに比べて，顔が女性的时候には大きな差がありました。この結果は，評価する人が男性でも女性でも同じでした。

なぜ男性の顔より女性の顔の方が影響が大きいのか，正確な理由はまだわかりません。しかし，評価する人の性別によらず同じ結果だったことなどから，男性の顔の魅力よりも女性の顔の魅力の方が重視される社会規範や，それに基づいた認知の枠組み（ジェンダー・スキーマ）が影響している可能性が考えられます。

Ⅳ. 今後の展開

人間が行う評価や判断が本来は無関係な情報に引きずられてしまう現象は多く知られています。本研究の結果はその新しい例と言えます。さらに本研究は，顔魅力が評価・判断に与える影響が「異性の人物について評価する」といった典型的なケースに限られないことも示しました。顔魅力の影響が人物そのもの以外の物体（Tシャツ）の評価にも及び，しかもそれは写真が異性か同性かにかかわらず，また評価者が男性か女性かにかかわらず見られたからです。加えて，本研究で用いた顔写真はモデルなどの魅力が特別に高い写真ではなく，一般的な大学生の写真でした。こういったことから，私たちが思っている以上に多くの評価・判断が顔魅力（とくに女性の顔魅力）に引きずられている可能性があると考えられます。重要な評価・判断においては，このような可能性に留意する必要があると言えるでしょう。

今後の研究では，この現象の一般性を確かめ，また女性顔の魅力の方が影響が大きい理由を明らかにするため，大学生以外の人に評価してもらったり，異なる地域・文化で同様の実験を行ったりすることなどが考えられます。



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

V. 研究成果の公表

これらの研究成果は、2020年5月22日、日本心理学会の機関誌『心理学研究』（J-STAGE オンライン早期公開）に掲載されました。

論文タイトル「顔の魅力が服の魅力評価に与える影響とその性差」

著者：新美 亮輔・山田 真也

doi: 10.4992/jjpsy.91.19004

本件に関するお問い合わせ先

新潟大学人文学部

准教授 新美 亮輔（にいみ りょうすけ）

E-mail: niimi@human.niigata-u.ac.jp
